

 長久手市長 佐藤有美	愛知県 市章 長久手市 NAGAKUTE CITY あいさつ運動・ごみ拾い運動に取り組んでいます。 あたたかく美しいまちをつくりましょう！	【データ】 ※令和7年3月31日現在 ・人口61,381人 ・世帯数：26,197世帯 ・面積：21.55km² ・市の花：サツキ ・市の木：カエデ 【担当】 長久手市福祉部健康推進課 0561-63-3300
---	--	---

◆長久手市の紹介

長久手市は、2012年1月に単独市制施行により愛知県で38番目の市として誕生しました。

名古屋市や豊田市と隣接し、市の西部は、土地区画整理事業により新しい都市のまちなみが広がり、東部には、昔ながらの田園風景が残る、都市と田園という両面を合わせ持つのが特徴のまちで、ベッドタウンとして発展してきました。

若い世代を中心に人口増加が続いており、2020年の国勢調査で平均年齢40.2歳となり「日本一若い市」となっています。



◆まちの未来をつくるための6つの重点政策

「市民の今を支え、まちの未来をつくる」のキャッチフレーズの下、現在や未来の課題にしっかりと向き合い、6つの重点政策「子どもがすくすく育つまち」、「高齢者に優しいまち」、「誰もが希望をもてるまち」、「文化芸術・スポーツのまち」、「自然環境を大切にすまち」、「安心安全なまち」に取り組んでいます。

◆第6次長久手市総合計画「ながくて未来図」に掲げる将来像の実現

将来像：幸せが実感できる 共生のまち 長久手

「共生」は、一人の力では決して成り立たず、多世代が関わり混ざり合うことで成り立ちます。多くの人に関わると、意見が合わずもめたり、時間がかかったりして、うまくいかないこともあります。しかし、そうした過程が、市民の力、地域の力を育みます。人と人、人と地域、人と自然、様々なものがつながり、「共生」することで、幸せが実感できるまちを目指します。



◆愛・地球博の理念の再認識、次世代への継承

今年は、2005年日本国際博覧会「愛・地球博」（以下：「愛知万博」）が開催されて20周年となります。愛知万博の会場であり、2024年3月にジブリパーク全5エリアが開園した、愛・地球博記念公園において、様々な人々が集いつながりの場となる記念イベントが開催されています。愛知万博は、「自然の叡智」をテーマに掲げ、市民参加、地球規模の課題解決に取り組んだ万博として、改めて未来を担う次の世代とともにその意義や理念を再認識し、持続可能な社会を継承していくことを目指します。

◆健康づくり計画（第3次）を策定

2025年3月に健康づくり計画（第3次）を策定しました。「みんなのすこやかな輪を広げるまち 長久手」を基本理念とし、一人ひとりが考える「健康の姿」を尊重しつつ、健康寿命の延伸、健康づくりに取り組む市民の増加を基本目標としています。本計画では、様々な団体との連携強化、アプリ等のデジタル技術の活用により、新たに健康に関心を持つ人、健康づくりを続ける人を増やし、まち全体で健康づくりの輪を広げることを目指します。そして、引き続き一人ひとりの主体的な健康づくりの推進、生活習慣病の発症予防と重症化予防を推進するとともに、まち全体で誰もが無理なく自然に健康になれる環境づくりを進めていきます。

◆健康増進に関する連携強化

健康づくり計画（第3次）において、様々な団体との連携強化を進めていくなかで、健康増進に関する連携協定の締結先を増やしています。

特定健診・がん検診の受診率向上や健康増進事業に協力して取り組み、市民の健康増進や市民サービスの向上を図ることを目的としています。また、本市の健康課題解決に向けて、相互に連携・協力していくことを目指しています。

◆健康づくりに関わる市民団体

『食と健康を考える会』

ボランティア団体として食生活に関する知識の普及・啓発活動を実施しています。現在は会員23名で、離乳食教室、親子朝食講座、小学校学習体験、フレイル予防のレシピ提供等の活動を行っています。全ての年代の方を対象に、「食」を通じた健康づくりをサポートを展開しています。

